

## 6 下水道・河川

～公共下水道の整備や良好な水辺環境の実現が図られているまち

### <基本計画の目標>

- 公共下水道（雨水）、河川並びに雨水貯留施設整備をさらに推進し、浸水被害の解消をめざします。
- 下水道の普及をさらに促進させるとともに、市街化調整区域内の生活排水処理をすることにより、生活環境の向上を図ります。
- 施設の改築・更新等を推進し、鎌倉処理区の再構築をめざします。
- 水環境の向上に努め、親水性を高めます。
- 下水道資源(水・熱・汚泥等)の有効利用を図ります。

### <目標指標:市民意識調査による市民の満足度>

| 市民満足度  | 当初値   | H18<br>実績 | H19<br>実績 | H20<br>実績 | H21<br>実績 | H22<br>目標値 | H22<br>実績 | H23<br>実績 | H27<br>目標値 |
|--|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|------------|
| 「鎌倉市は、公共下水道の整備や良好な水辺環境の実現が図られているまち」と感じている市民の割合 | 63.3% | 65.4%     | 65.7%     | 68.8%     | 68.2%     | 66.0%      | 70.5%     | 68.8%     | 68.0%      |

### <6年間の取組の評価>

#### 【都市整備部】

・市街化調整区域の整備は平成22年度、管渠の耐震化は平成21年度から着手し、着実に整備を進めています。  
 ・市民の安全・安心を図るため、安定したライフラインとしての下水道施設の修繕を計画的に進めてきました。

公共下水道(雨水)の整備については、事業計画に基づき毎年行っています。  
 また、公共下水道(雨水)の修繕については、雨水幹線の劣化診断調査とこれに基づく修繕や、要望等に基づく修繕を、毎年行っています。  
 準用河川は、法面保護としての護岸整備は、ほぼ完了していますが、今後は、計画断面としての整備が必要です。

雨水貯留施設の設置については、鎌倉市下水道総合浸水対策計画の中で、基本的な整備方法等が示されました。  
 また、雨水浸透施設の普及については、市民の協力を得て、順次普及が進んでいます。

河川・水路における親水性の整備については、現在のところ調査検討の段階です。

これまでも下水道処理水の一部を場内利用してきましたが、処理水のみならず汚泥等の下水道資源の有効活用について調査・検討を進めてきました。  
 大規模災害へ対応するため、早期に下水道BCPの策定が求められていることから、暫定版の策定作業を行っています。  
 山崎浄化センター西側上部利用については、浄化センター建設時の周辺住民との約束でもあることから、既に山崎浄化センター西側上部利用基本計画は策定済みです。  
 「めざすべきまちの姿」として下水道事業は、下水道施設の整備が最終目標ではなく、完成した施設をどのように維持管理し、持続可能な下水道とすることが重要となります。

## ＜今後の方向性＞

### 【都市整備部】

・優先度等や事業効果を検証しながら、効率的な事業実施を図ります。  
 ・公共下水道の機能を持続させるため、予算の平準化を図りながら施設の延命化を計画的に進めていきます。

公共下水道(雨水)の整備については、事業計画に基づき今後も同様に行っていきます。  
 公共下水道(雨水)の修繕については、今後、老朽化等を含めた現況調査を行い、計画的な対応を図ります。  
 準用河川の整備については、計画断面の整備を推進するため、整備方法と併せて、用地確保に向けた検討をします。

鎌倉市下水道総合浸水対策計画に基づき、雨水貯留施設の整備に向けて検討します。  
 また、市民の協力を得て雨水浸透施設の普及促進に努めます。

今後は、地域住民や環境団体等との協働を図りながら、親水性整備基本計画を策定し、整備に向けた具体的な検討をします。

持続可能な下水道事業の実現をめざすには、将来的に懸念されるエネルギーの枯渇や非常時の自立した電力確保、CO2削減等の環境問題への対応、市民負担の軽減を図るための維持管理費の削減、企業会計化に向けた取組等の対応を進めます。

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《この分野の6年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見》

・ハード面の整備は財政状況との関連で徐々に進められてきた。市全体の公共下水道普及率(対処理可能人口)が平成23(2011)年度末で96.8%となり、概ね事業が基本計画の目標達成に向かっており、また、下水道BCPの策定に着手した点は評価できる。また、良好な水辺環境の実現が図られ、市民の評価も得ることができたことは十分評価できる。

・近年、超過降雨からの浸水、土砂崩れなどの災害が市内で起きている。対策が急務であると思われるが、予算確保の問題や所有者行方不明土地への対応など時間がかかる場合は、危険箇所を周知させるなどの対策を取り、被害を最小限に留めたい。

・雨水対策の具体的施策と目標はあいまいである。

・計画と予算に応じて適正に計画を実施しているが、震災によって確認された新たな課題や環境変化に対する対応については、まだまだやるべきことが多く残っている。

| 評価の内訳(委員数) |   |   |   |   |   | ⇒ | 評価委員会の評価 |
|------------|---|---|---|---|---|---|----------|
| ◎          | 3 | ○ | 5 | △ | 0 |   | ○        |

## 《将来のまちづくりの展望に向けたこの分野に関する意見》

- ・下水道施設の整備が最終目標ではなく、完成した施設をどのように維持管理し、持続可能な下水道とすることが重要になるという意識で今後も進めてほしい。
- ・東日本大震災発生に起因した社会資本整備総合交付金減額、未普及箇所の整備縮小の問題などへの対処。大規模災害に対応する下水道BCPの策定など。
- ・接続に積極的な地域を優先的に整備を行うということは、やりやすい所からやるということになる。優先順位に関する考え方としては、整備することによる効果や影響を評価すべきと考える。
- ・山崎浄化センターの上部利用に関する実施計画に期待する。
- ・鎌倉市公共下水道(雨水)の現行計画降雨量は57.1mm/hであるが、ゲリラ的集中豪雨の実態を考慮してアップする必要がある。
- ・河川への津波遡上対策が新たな課題となってきた。
- ・雨水排水施設の耐震化を推進には国庫補助など、財源確保が必要である。
- ・津波、ゲリラ豪雨といった新たな災害への対応も積極的に強化するための検討が必要である。雨水貯留施設は必要度が高いのでスピーディーな対応を期待する。
- ・良好な水辺環境に関して、これまで全く取り組んで来なかったことを反省し、親水性の整備を次期基本計画ではとくに留意して進めるべきである。
- ・さらなる水辺環境の改善も期待される。
- ・水道料金の値上げ額を抑える取組が望まれる。

## 《この分野に関する総括意見》

- ・鎌倉市の事業範囲に上水道は含まれないのかもしれないが、下水道のみを分野として扱うのは違和感がある。管轄は違えど、下水と上水は一体として考えていく必要があると考える。分野名の見直しを検討したい。
- ・近年、災害の多様性、新しい課題が見えてきて、その課題への対応は必然であろう。そのための財源は欠かせないもので、その確保に努力が必要となるであろう。
- ・近年の集中ゲリラ豪雨で水害が起きる箇所が市内にもあり、対策が必要である。東日本大震災以降、河川への津波遡上に対する対応が大きな課題。防災との連携、災害の想定見直しなど対策が望まれる。
- ・鎌倉処理区の終末処理場や汚水管路施設は、供用開始から30年以上経過し、老朽化が著しく、改築・更新が必要となってきた。なお、既存施設の維持・管理は定常的に行うものであることから、災害対策等とは別の事業として行うべきと考える。
- ・親水性整備計画を策定し、実現に向けて努力を期待する。水辺環境の創出は、憩いと安らぎを求める人達にとって、夢のある事業であり成果を期待する。
- ・インフラとしての河川整備と親水性の確保、良好な水辺環境は地域の力をより発揮できるよう、別の体系で検討していく方が妥当である。